

もしもしフォーラム

読者の皆さんとコミュニケーションをとりたい。
そんな思いを込めた情報ページ「もしもしフォーラム」では、
身近なニュースから心あたたまる話題まで、皆さんに役立つ情報をご紹介します。

読者からのお便り

病気に感謝

品川区在住
長谷川 嗣夫さん



何をふざけたと思われる方がおられるかもしれませんが、本気です。私は医師として自治医大に勤め、定年後は、国際医療福祉大学で働きました。いずれも栃木県にあり、家族は東京ですから30数年間、準単身赴任生活を送っていました。

これと現在の病との因果関係は分かりません。今年(2007年)1月中旬に時々右背部痛を覚え、2月初めに勤務先の大学病院で胸の画像検査を受けたところ、妙な陰影があり、すぐに自治医大大宮医療センターに入院し、検査の結果、悪性リンパ腫と診断されました。

リンパ腫にもいろいろな型がありますが、幸い薬が良く効くタイプでした。すぐに化学療法(以下、化療という)を始めました。リンパ腫は外来化療が可能のため、自宅から比較的近く、血液内科の名医がそろっているNTT東日本関東病院に3月から転院し、浦部元部長、臼杵部長をはじめ諸先生方、看護部は言うに及ばず病院の各部門の皆さん方に大変お世話になり、今日に至ります。

肺がんで手術後、化療を受けた患者さんから「手術と比べて化療ははるかに辛い。まさに拷問ですよ」と嘆かれたことが一度ならずありましたが、「我慢、我慢」の一言で場当たり的に励ましていました。けれども実際にその苦しさは実感を伴わない、いわば他人事でした。

今回の私の化療は、肺がんに比べれば随分しのぎやすいものだと思いますが、それでも何と

言えない倦怠感が続き、化療直後の数日間は吐き気があったり、もともと薄い髪の毛は抜け、やる気が出ません。

しかし、この病気は完治が可能であるという希望が持てることはありがたいと思います。肺がんの場合、本当に治るのかという不安と、薬の重い副作用が患者さんを滅入らせる大きな要因です。

10数年前まで日本では、一般にがんの告知をしないのが普通でした。40数年前、私がアメリカで学んだ当時、アメリカでは90%の患者さんに悪性腫瘍の告知をしていることに驚いたものです。病気に対する考え方、宗教的背景の違い、いろいろな理由がありましよう。現在は、日本でも特別な理由がない限り、がんの告知をしています。

以前は医者ほど嘘をつく人間はいないと思っていましたが、今日では嘘をつく機会が少なくなり助かります。

その理由の一つは、がんの治療法が進んだこと、特に化療が格段に進歩し、末期がんの患者さんの苦痛への対応を適切に行えるようになりました。つまり医療サイドが自信を持って、がんに対処できるようになったことが挙げられます。

ここで大事なことは、患者サイドの気持ちの持ちようです。「病は気から」と昔からいわれています。そんな気休めは、いい加減にしておけと思う方もいるかもしれませんが、本当です。精神作用(あるいは情動作用)が病気の経過に大きな影響

があることは、確かな事実として医学の世界では認められています。遺伝の研究で著名な村上和雄教授の書かれた「生命の暗号」にも記されていますが、物事を前向きに考える遺伝子のスイッチをonにすれば、がんは治り得るのです。

昔からがんには促進因子と抑制因子があることは知られていますが、その抑制因子のスイッチをonにすれば良い。そのためには、明るい気持ち、落ち込まず、夢を持って生きることが大きなきっかけになります。

逆の場合はよくあることです。私が学生時代、医学者で某国立大学の学長をしていた方が、胃がんを患いました。例によって本人に告知されていませんでしたが、医者ですから薄々感づいてはいたのでしょうけれども、普通の生活をしていらっしやいました。そこへ友人が手紙を書きました。一通は本人あてで「がんではなくてよかった」という励ましの手紙、もう一通は夫人あてで「がんでお気の毒だが頑張ってください」という慰めの手紙で、封筒に入れるときにあて先を間違え、学長に行くべき手紙が夫人へ、夫人へ行くべき手紙が学長に届けられてしまいました。学長は急速に衰弱されて、この世を去られたという話を聞きました。

人間の遺伝子^{たんぱく}蛋白の作られ方は、摩訶不思議なものです。そのすべての構造は、2003年4月までに読みつくされていますが、約30億の遺伝子情報があるといわれているその作用の精妙

さは、簡単に読みきれものではありません。また実際に利用されている情報はごく一部で、大部分は利用されずに眠っています。

しかし、いずれはすべてが読み取れるときが来るはず。読めれば好ましいスイッチをonにできるわけで、これは疾病の予防、治療にも使えます。遺伝子治療の研究の進歩は画期的です。遺伝子の運び屋(ウィルスベクターなど)を利用して体外から導入する試みは、がん(肺・肝・腎など)や血管新生などの分野で幅広く行われていますが、未だ治療に使える状況ではありません。今できることは、眠っている遺伝子を呼び起こすこと、前向きに明るい気持ちを持つことです。

一体この巧妙な、人知をはるかに超えた作用をだれが作り出したのでしょうか。もちろん人間ではありません。私は人の創造主、神の業と考えざるを得ないと思います。聖書に「神は人に耐えられないような試練に遭わせることはなされず…」と記されています。病も大きな試練ですが、耐えられない病気はなく、その一つ一つに大きな意味があると思います。私も自らの体験から、この貴重な事実を教えられています。もし社会に復帰することが許されるならば、将来の医療にこの経験を生かして、悩める患者さんへの奉仕に役立てたい。そのような気持ちを持ってたこと、この病気に、また担当医をはじめ病院の皆さんに感謝しながら、化療室のスタッフの皆さんの笑顔に支えられ、明るい明日を夢見て通院を続けております。

ボイス

“もしもし”読者の皆さんからのご寄稿を募集しています!

“もしもし”では、患者さんと病院との架け橋になれるよう、当院をご利用いただいた際に感じられたこと、病気や看護に関することなど、読者の皆さんからのご意見や提言をお待ちしています。

氏名、連絡先を明記の上、右記にご応募ください。

応募先(事務局)

電話:03-3448-6651

FAX:03-3448-6617

E-mail:pr@kmc.mhc.east.ntt.co.jp



セクション紹介

臨床写真室

病院で診療上、撮影される静止画・動画などの医用画像を、記録、保存、加工する部門です。

病院にこのような部門があることは、一般的にはほとんど知られていませんが、全国各地の規模の大きな医療機関には多く存在し、医療用画像を専門的に扱うことを学んだ医学写真技師が、その業務に携わっています。

当院の臨床写真室での仕事を簡単に紹介したいと思います。

撮影業務

患者さんを対象に、医師の指示を受けて、診療上必要な臨床写真の撮影を行います。体の表面の異常所見や手術中の様子などを撮影し、記録します。

臨床現場においては、実際に診断に当たった医師以外の人が見ても、病状を的確に判断できるように被写体を忠実に再現した写真が求められます。また、治療経過を追ってその病状の変化を、大きさや形のみならず、色調も比較して客観的に判断するためにも、一定の条件で正確に撮影することが必要となります。

以上のような患者さんを対象にした臨床写真以外にも、医療器具・標本などのあらゆる撮影依頼に対応しています。病院設備やイベント風



大型プリンター

景、職員の顔写真などの院内行事に関する撮影も行っています。

画像作成業務

フィルムや印刷物を含むあらゆる画像を対象に、スキャナーやパソコンを駆使した種々の画像処理業務を行っています。従来のフィルムに加えて、デジタル画像の画像調整業務も増加しています。また、学会発表用のテキストの入力、グラフ・イラストの作成も行います。臨床写真室には、1メートル幅まで対応できるプリンターが設置されており、学会発表のみならず、院内で使われる横断幕や垂れ幕、ポスターを作ったりするときにも活用しています。さらに、近年、動画を用いたプレゼンテーションの機会が増え、これらの支援業務も行っています。

以上のようなことを臨床写真室では主な業務として行っています。

病院で必要とされる写真撮影や画像作成を専門的に扱う部署として、医療画像の保存に深くかわかり、かつ病院で働く人たちをサポートし、医療サービスの向上に努めています。



撮影室

リレーエッセイ

海で逢いたい

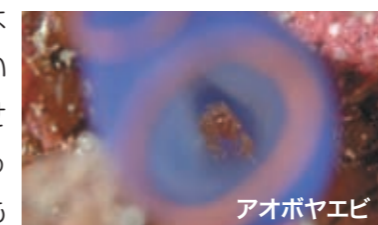
CCU 看護長
森田 佳子



マガタマエビ

私は趣味を聞かれると「ダイビングかな〜」と答えます。入社2年目から何の気なしに始めたダイビングですが、すっかり海のとりこになってしまいました。先月も海外へダイビング旅行に行ってきたばかりです。毎週末のお休みは、ほとんどダイビング。収入のほとんどが「泡」になって消えてしまい、まさにバブリーな生活そのものです。友人の中には「趣味は看護師でしょ。仕事がダイビングなんだから」と冗談もとれないことを言ってくれる人もいます。

ダイビングはスポーツと分類されることもありますが、私にとっては「癒しのとき」といえるのかもしれませんが。海の中へちよっとお邪魔させても



アオバヤエビ

らって、そこに住む小さな生き物と同じ目線でゆったりと時を過ごす。水中で過ごせる時間は本当にわずかですが、身も心も癒されるひとときが過ぎていきます。



リトルファイルフィッシュ

水中には限られた時間しかいられないし、同じ条件は二度とありません。海の中での驚きや感動したこと、そんなひとコマを切り取って写真に撮っておこうと水中写真を始めました。仲間と集まって写真を披露しているうちに、一緒に写真展

を開こうと大崎の美術館で開催するようになりまし。この写真展もすでに今年で11回。日本中のアマチュア水中カメラマンや賛同してくれるプロの水中写真家の作品など、どんどん仲間が増え、今年は80人、130点もの規模になり、さらに世界が広がりました。

「海で逢いたい」。写真展の題名ですが、素直にそう思います。皆さんも一度のぞいてみませんか？

健康レシピ

今月の行事食

処暑(8月)

【献立】 *うなぎ *夏野菜の炊き合わせ
*茶碗蒸し *冬瓜の水晶あん *すまし汁
*果物

うなぎの作り方(1人前)

【材料・分量】 *うなぎの蒲焼き(市販、タレ付き) 1尾
*ご飯 *酒 *山椒 少量

【おいしいうなぎを作るコツ】

- 炊飯器でご飯を炊く。
- 市販のうなぎの蒲焼きは1尾分を4切れに切る。
- ①の炊き上がったご飯の上に②をのせ(炊飯器の中に入れる)、酒を全体的に振りかけ、再び炊飯器のふたを閉めて10分蒸らす。
- 炊飯器からうなぎの蒲焼きを取り出し、ご飯は全体に軽く混ぜて余分な水分を飛ばす。



- 器にご飯を少量よそい、付属のタレを1/3かける。その上に同様に ご飯をよそい、付属のタレを1/3かける。最後にうなぎをのせ、残りのタレをかける。
- お好みで山椒をかけていただく。

古関 義広 エームサービス株式会社